

令和８年度 五百石地区町政懇談会

開催日時 令和８年７月６日(月) 午後７時～午後８時

開催場所 五百石公民館

出席者 立山町 舟橋町長、野中副町長、清水総務課長、林住民課長

野田建設課長、林商工観光課長、那智係長

五百石地区振興会 浦田恒市会長

企画政策課 瀬本課長、柳田課長補佐、中川課長補佐、森主任、山本

参加者数 59名（うち町職員17名）

Ⅰ 挨拶

町長 挨拶

浦田会長 挨拶

Ⅱ 懇談会

（Ⅰ）町からのお知らせ（住民課より説明）

①ごみ減量化のお願いと関連事業の紹介

②町営バス AI オンデマンド運行（予約型運行）実証事業の実施について

（Ⅱ）地区協議事項

Ⅰ. 五百石駅周辺の再開発等について

近年、五百石地区にはアカリエやコンビニが整備され、便利になった・にぎやかになったという声を聞く。

令和7年3月に策定された「五百石駅周辺施設整備基本構想」には、五百石駅周辺に、入浴・宿泊できる施設は地域交流施設、皮膚科や歯科などの診療機関を整備すること等が記載されている。

また、サウンディング型市場調査として、民間事業者等へのアンケートを実施し、各施設の配置や規模から整備・運営・維持管理において、意見を聞くこととされている。

そこで、現在の進捗状況や事業者等の反応について伺う。

五百石駅周辺の再開発に関しては、地域住民の関心が非常に高くなっている。

（建設課長）

ご認識のとおり、町では令和7年度に、五百石駅周辺への立地が望ましいと考える施設の、整備や運営の実績を持つ民間事業者と対話するサウンディング型市場調査を行いました。

この調査では、当地への進出に対する関心度や、役場や地元地域に求める条件などについて聴き取り、その結果から、今後必要となる取り組みを整理しました。参加事業者は、業種としては、宿泊施設運営、建設事業など。規模としては、富山県を中心に活動されている企業から全国的な企業まで、多様な計12社に協力いただきました。

ヒアリング結果を総括しますと、

- ・現状、五百石駅周辺エリアには地域外から足を運びたくなる要素や、この地域ならではの魅力が足りないため、仮に町から経済的支援があったとしても、民間企業は積極的に進出を検討することができない。
- ・地域を挙げて“五百石駅周辺エリアの独自の魅力・価値”を創るところから始めなければならない。進出企業個々にそれらを期待するのでは、その企業が撤退すると立ち行かなくなるリスクがある。また、そもそも民間企業はそのような姿勢の地域を進出先として選ばない。
- ・持続的に発展する地域となるために、地元の住民や事業者、行政、新たな民間企業ら関係者が“五百石駅周辺エリアの魅力・価値”を協働で考え、形成していく取り組みが必要。

という結果でした。

このような結果を踏まえ、今年度は、民間施設も含めエリア全体のグランドデザインを描き、エリア再整備プロジェクト実施計画の作成に取り組みたいと思います。これらの計画やデザインは、民間事業の経営的な視点も含めて検討し、実効性の高いものとする必要があるため、業務委託により作成するのが良いと考えていますが、委託費が町の財政を圧迫しないように、現在国の補助事業の活用を申請している段階です。

ただ、業者任せで良いデザインや計画ができるかという点、そうではありません。地元の皆様がこのエリアでどんな風に過ごしたいのか、ご意見を把握しながら進めたいと思っています。そのために、何度か座談会を開催したいと思いますので、興味のある方はどなたでもご参加いただければ幸いです。座談会の進め方について、7月下旬頃に担当から、地区の代表の方に相談させていただくことを予定しておりますので、ご協力よろしくお願いします。

(3) 意見交換

●ごみの減量化について

ごみを燃やすだけではなく、ごみから資源を作る利活用にも目を向けてほしい。

(町長)

ごみの減量化は大事な取組です。他市町村ではごみ袋の有料化も予定されていますが、町では有料化の前に、例えば、草むしりした草は庭や畑に還すなど、ごみの減量化の取組をもう少しがんばりたいと考えております。ごみ１キロ当たり約１１円の負担金がかかっていることについても、町民の皆様を知っていただきたい思いがあります。

ごみから資源を作るというご意見をいただきましたが、そのような大規模な事業に町単独で取り組む能力もお金ありません。

●町営バス AI オンデマンド運行実証事業について

よい取組だと思うが、町だけで取り組むのではなく、民間事業者の力を活用してはどうか

(町長)

この事業は、先般、コンサルティング業務の委託事業者が決まったところです。他自治体でも実績がある大手企業であり、そちらの提案を元に準備を進めています。

また、資料２にある「停留所」については、公共施設や地鉄の駅に設置予定であり、そのほか協賛いただける病院や店舗等を募っています。例えば、町内中山間地から五百石地区のクリニックに、月に何度か通院する方もいると思います。委託事業者からの提案を元に、病院や店舗等から協賛金をいただいて停留所を作ろうと準備しております。

詳細は追ってお知らせいたします。

●五百石駅周辺の再開発について

人が集まる拠点づくりが必要。民間事業者の財政力を活用してはどうか。

(町長)

拠点づくりが必要であることは、その通りだと思います。町でもこれまで各方面に相談してまいりましたし、この地域を全体的にデザインするという提案をしていた企業もあります。町では、公正に、仕様書を作成し、８月には公募をかけ

る予定で準備をしています。五百石地区で開発しようという方がいらっしゃれば、建設課に相談していただければと思います。

●（仮称）観光・暮らし情報館について

建物を作る予算があるなら、まずは用地買収を先に進め、一貫してグランドデザインするべきと考える。建物建設や歩道拡張に伴う側溝水路改修工事は時期尚早ではないか。（仮称）観光・暮らし情報館を今のタイミングで建設する理由を説明してほしい。

（町長）

県道の歩道拡幅については、本来、県が対応するものですが、優先順位や他の路線との兼ね合い、諸条件等により町が実施する場合があります。

（仮称）観光・暮らし情報館の建設予定地にあった旧店舗の建物については、まちなかファームが焼失したことも踏まえ、地方創生を目的に、その解体費と用地代に対して内閣府の交付金を活用し実施しました。また、旧飲食店の建物の解体についても、歩道の拡幅を目的に、国土交通省の補助対象事業として実施しました。

先ほど、町が先に一帯の用地を購入するのが良いのではないかというご意見もありましたが、用地購入費については、目的がなければ国からの補助金はできません。町には財政力もありませんし、目的がなければ起債も認められません。予算の範囲内で国から支援してもらえるタイミングで少しずつ用地購入等を進めている状況です。

さらに、この場所では、過去の豪雨時に、用水から水があふれたこともあり、同じく内閣府の交付金を活用し、道路（歩道）の一環として用水路を直すことにしました。建築基準法では、建物を建設するために幅員4 m以上の道路に対して敷地が2 m以上接していることが条件であり、今後、開発事業者が対応しやすいように考慮したものでもあります。

●消防署西側（元町民体育館）のヘリコプター発着場について

砂利敷になっており、プロペラの風により土砂が飛散するため、ヘリコプター発着のたびに消防職員が交通整理しているようだ。向かいに児童公園もあることから、アスファルトにしてもらえないか。消防署員の訓練にも便利になると考える。

（町長）

ご迷惑をおかけしており申し訳ありません。

消防署からも要望を受けており、財政担当と相談いたします。

●五百石駅周辺の再開発について

トップダウン方式ではなく、住民側から、どういう町にしていきたいか意見を募り反映することが大事だと考える。

先ほどの協議事項に対する回答で、今後座談会を予定しているとあったが、ビジョンは決まっていないのか、またはある程度決まっていて、それについてどう思うかを話し合う座談会なのか

(町長)

令和5年1月に、国土交通省から支援してもらうために「都市再生計画」を策定し、その後「立地適正化計画」を策定しました。策定にあたっては住民からのヒアリングも実施しております。にぎわいが感じられる、誰もが過ごしやすい町というのがスローガンとなっています。

五百石駅周辺の再開発では、ホテルや皮膚科等の医療機関など、地域から賛成してもらえるようなものはぜひ提案していただきたいと思います。また、委託事業者には全体的にコーディネートしていただきますが、それに伴う歩道や用水などの地域課題については建設課が窓口になっていますので、そちらについてもご相談ください。

●五百石駅周辺の再開発について

補助金をもらうために事業をするのではなく、まずは町長が大きなビジョンを持って、その中でどのように進めるのかを話し合っていく必要があると感じる。

(町長)

まちなかである五百石地区には公共施設や金融機関等が集約しており、役場もあります。まちなかがさみしいと思われたいような、品のいい町にしたいと考えております。ビジョンについては、立地適正化計画にも掲載していますのでご覧ください。

3 閉会

堀田副議長 挨拶

終了